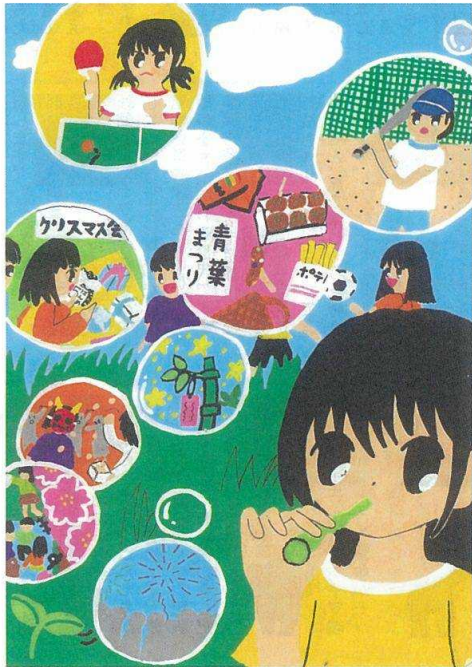


ひろげよう人の輪 深めよう心の輪 光り輝く、未来に生きる青葉っ子



青葉通信

創刊号

発行/中日青葉学園
愛知県日進市岩崎町竹ノ山
149-164 千470-0131
©0561(72)0134

絵画・標語

中日青葉学園は、今年十月、児童養護施設に児童心理療育施設を加えた複合施設となつて三年経過、四年目に入ります。これを機に、子どもたちから明るく楽しい学園を表現した「絵画」、職員から「標語」を募集しました。

絵画二十一点、標語四十九点の応募があり、審査の結果、理事長賞は絵画の部で女子中学一年Tさん(わかば館)この面参照、標語の部で水野麻里さん(あおば館児童指導員)見出し参照がそれぞれ選ばれました。

このほかの入賞者は次の皆さんで、作品は学園パンフレット改訂版など様々な場面で使用していきます。(敬称略)

「絵画」
▽優秀 〓 高校二年S、中学三年N
▽佳作 〓 中学二年T、同一年S、小学五年

S・A、同S・M、同四年T(いずれもあおば館女子) 〓 四面参照
▽特別賞 〓 武智絵里(あおば館児童指導員)「標語」

▽優秀 〓 高橋悦子(あおば館同)

「笑顔がいつばい 楽しさいっぱい 元気がいっぱい みんなで夢をかなえましょう」

子どもたちの自立に支援を



社会福祉法人 青葉学園 理事長 大島寅夫

ことし十月、わたしどもが運営する中日青葉学園が、児童養護施設「あおば館」に児童心理療育施設「わかば館」を加えた複合施設として再出発して四年目を迎えるのにあたり、学園の便り「青葉通信」を創刊することとなりました。まずもって、これまで学園を支えてく

▽佳作 〓 安藤美菜子(同児童指導員) 山内早苗(同心理士) 水野麻里、寺井陽一(同指導課長) 横山弘子(わかば館看護師)

★喜びの声

絵の部門で理事長賞を受けた中学一年女子Tさんの作品は、卓球、青葉祭りを女の子が吹いているシヤボン玉の中に描いた。「受

ださいました関係の皆さまに厚くお礼申し上げます。

さて、近年、家庭での養育が困難となつた子どもが増加、児童福祉施設の役割はますます重要となっております。こうした中、当学園は「あおば館」七十人、「わかば館」三十五人の合わせて百五十人の児童をお預かりし、職員五十人が自立に向けた支援に丸となって取り組んでいるところです。

また、敷地内に併設の学習棟「日進市立北小学校・日進中学校分校」も老朽化したことから、ことし

賞するとは思わなかった。がんばってよかった。シヤボン玉の配置が難しかったけど吹いている子はうまく描けた」と喜んでる。

標語の受賞者、水野麻里さんは「この言葉のように自分自身も子どもと職員との輪(和)を大切に励んでいきます」と話している。

三月に建て直し、子どもたちは明るく新しい教室で心も新たに勉強に励んでいます。

子どもたちの入所理由は、被虐待、親の離婚、保護者の養育放棄、不登校など様々です。わたしたちは複雑な事情を抱える子どもたちを一人ひとり手厚くケアし、社会に送り届けるためこれからも努力を重ねていく所存です。この「青葉通信」が皆さまと学園との懸け橋になることを期待し、今後とも当学園の運営にご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

元気な「あおば」新鮮な「わかば」 それぞれの個性を伸ばします

中日青葉学園は、社会福祉法人中日新聞社会事業団が運営する児童福祉施設で、昭和三十五年、社会事業団創立二十周年を

記念して設立されました。当初は、病気や不登校の子どもを対象とした虚弱児施設でしたが、平成十年、児童養護施設に変わり、同十五年十月、児童心理療育施設を加えた全国でも数少ない複合施設となりました。

学園は戦国時代、長久手の戦いで知られる岩崎城の近く、緑あふれる丘陵地、日進市岩崎町竹ノ山に位置します。一万五千平方メートルの敷地に一部三階建ての学園(三千七百平方メートル)、併設の二階建て学習棟「日進市立日進中学校・北小学校各分校」(千二百平方



「写真は、右があおば館、下左がわかば館、上は青葉分校＝中日新聞社ヘリから撮影」

メートル)があり、学園は十五年秋、分校は今年春に建て替えられたばかりです。

児童養護施設あおば館は六時半に始まり、朝食を済ませ、幼稚園、分校、本校、あるいは高校へ。夕方帰園すると、学習したり、グラウンドでスポーツしたり。午後六時から夕食、食事はあおば館は各ホーム、わかば館は食堂で、毎日、手作りの温かい献立が用意されます。就寝は小学生午後九時、中学生九時半、高校生十一時。

は二、三階の二つのフロアで四つのホーム「しらかば」「けやき」「二階」「もみじ」「ひのき」(三階)に分かれて七十人が、児童心理療育施設「わかば館」は、二階で二つのホーム「あさぎ」「もえぎ」に分かれ三十五人がそれぞれ生活をともにしています。

わかば館一階には、医務室、静養室、心理療法室、

非常勤職員七人)の体制をとっています。
(紹介記事参照)
「見出しは横山さんの標語作品」
遊戯室、食堂、調理室があります。児童は三歳から十八歳まで。両親の離婚、交通事故などによる養育難、虐待などさまざまな理由で児童相談センターを通じて入所します。
平日の子どもたちの朝は六時半に始まり、朝食を済ませ、幼稚園、分校、本校、あるいは高校へ。夕方帰園すると、学習したり、グラウンドでスポーツしたり。午後六時から夕食、食事はあおば館は各ホーム、わかば館は食堂で、毎日、手作りの温かい献立が用意されます。就寝は小学生午後九時、中学生九時半、高校生十一時。
子どもたちを支える職員は、あおば館が児童指導員二十二名、心理士一人、わかば館が児童指導員十一名、心理士五人、精神科医、看護師各一人。このほか、事務員二人、栄養士一人、調理員五人(この内、

青葉分校

日進市立日進中学校・北小学校青葉分校は、昭和三十五年、青葉学園開設と同時に、学園敷地内に設立。今年三月、新しい校舎(二階建て)に建て替えられました。

一階は職員室、保健室、図書室兼コンピュータ室、音楽室兼集會室、家庭科室、技術科室、二階は中学校五教室、小学校六教室、教材室各校一室を配置、ゆつたりとした空間で学ぶことが出来ます。

中学校は五クラス、小学校は六クラスがあり、中学校には近藤章彦教務主任はじめ二十一名、小学校には口野孝典教務主任はじめ八名の先生が勤務。学園からは小学生二十四人、中学生二十九人が通い、子どもたちはピカピカの教室で気分を一新して勉強に励んでいます。

年間行事

中日青葉学園では、子どもたちのレクリエーション、社会勉強などのため毎年、いろいろな行事に取り組んでいます。

9月までの主な行事

- 4月1日 ナゴヤドーム「フットボール開幕」広島戦招待
- 6日 北小学校入学式
- 7日 日進中学校入学式
- 22日 ボウリング大会(星が丘ボウル)
- 5月17日 青葉分校新校舎完成式
- 20日 グランパスエイト・サッカー教室(学園)
- 28日 大野名水マラソン参加(大野市)
- 6月3日 青葉スポーツ大会(学園)
- 7月1日 あおば館肝試し(五色園)
- 8日 わかば館肝試し(学園)
- 20日 救命教急訓練(学園)
- 21日～23日 小学生キャンプ(郡上市、恵那市)
- 24日、25日 幼児キャンプ(幡豆町)
- 27日～29日 中学生キャンプ(若狭町)
- 8月2～4日 中日子ども村郡上市
- 22日 愛知県児童福祉施設入所児童夏季ソフトボール大会(幸田町)
- 23日 同卓球大会(日進市)
- 28日～30日 AICHI高校生交流会(東栄町)
- 9月9日 豊橋市自然史博物館「恐竜と生命の大進化」展招待
- 18日 あおば記録会(学園)
- 24日 あおば館駒ヶ根マラソン参加(長野県)



恐竜展



小学生キャンプ

中日青葉学園 愛知県児童福祉施設入所児童 夏季球技大会で **圧勝**

十八年度愛知県児童福祉施設入所児童夏季球技大会(愛知県児童福祉施設長会主催、愛知県、同県社会福祉協議会、中日新聞社会事業団など後援)が八月二十二、二十三日、県内で開かれ、ソフトボール一部で「あおば館A」、卓球団体戦で「わかば館A」がダブル優勝、卓球団体戦で「あおば館A」が準優勝、卓球個人戦では、青葉学園児童が全部門で優勝するなど圧倒的な強さを見せた。

あおば館四年ぶり

二十五回目の優勝

ソフトボール大会は、二十二日、幸田町とほねグラウンドで、一部に十チーム、二部に七チームが参加。青葉学園からは一部に「あおば館A」II下写真(右側)右下写真(エースの力投)「わかば館A」、二部に「あおば館B」が出場。「あおば



館A」は一回戦で「わかば館A」を破った天和荘」を優勝決定戦で下し、四年ぶり二十五回目の優勝を飾った。「あおば館B」は二回戦で優勝チームと対戦、涙を飲んだ。

わかば館初優勝

卓球は、二十三日、日進市スポーツセンターで団体戦に十五チーム、個人戦に百五十人が参加。団体戦には「あおば」二部からそれぞれA、Bの四チーム、個人戦には両館から十九人が出場。団体戦の優勝決定戦は、「あおば館A」と「わかば館A」が激突、「わかば館A」が昨年、一回戦で敗れた「あおば館A」に競り勝つて初優勝、雪辱を果たした。「あおば館B」も健闘、四位に入賞、「わかば館B」は一回戦で「あおば館A」



に敗退した。

個人戦では「中高男子の部」であおば館中学一年生が一位、「中高女子の部」でわかば館中学三年生が一位、同館同三年生、あおば館同一年生が三位、「小男女の部」であおば館小学男四年生が一位と上位を独占した。団体戦の優勝は、学園としては二年連続、二十九回目。

連帯での勝利

今年の球技大会、大会直前に選手の不祥事があり、参加を見送ることも検討された。高校野球なら出場辞退のケースだが、当事者は深く反省、ほかの選手も全員が自ら進んで練習日に園内清掃奉仕をしての参加となった。子どもたちの熱い連帯がもぎ取った優勝だけに、喜びも大きかった。

ソフトボール部監督の高壽孝一主任指導員は「子どもたちの声を出しあい励ましあう姿、バッターボックスで気迫あふれる表情にたくましさを感じ



「一本集中」試合前の団結

た」、卓球部総監督の倉橋幸彦指導員は「あおば、わかばの優勝決定戦、望んでいたことが実現してうれしかったと振り返った。

中3 N



高2 S



優秀

絵画入賞作品

小4 T



小5 S.M



小5 S.A



中1 S



中2 T



佳作

安藤学園長 特別功労者表彰

安藤邦俊学園長は、中日新聞社創立記念日の九月一日、特別功労者として白井文吾本社会長から表彰を受けました。

安藤学園長は中日新聞社で長年、新聞記者として活躍した後、平成九年、学園に赴任、事務長を二年務め、十一年から学園長に。虚弱児施設から児童養護施設へ十年に種別変更、十五年に児童心理療育施設を加えた複合施設立ち上げ、今年に青葉分校の建て替えに尽力されました。

「今回の功労表彰は、学園の職員全員が受けたのだと、思っています。中日新聞社事業団と、職員の方々に心から感謝しています」と喜びを話している。



お知らせ

今年十月から園舎防犯システムを導入しました。午後九時半から午前五時半まで建物に近接すると、センサーが感知、異常を知らせます。この時間帯に学園に御用の方は、玄関右・職員室角にあるインターホンⅡ左写真Ⅱで職員にご連絡ください。ご協力お願いいたします。



神谷顧問表彰

学園顧問の神谷育司さんが九月中旬、大阪で開かれた第二十五回日本心理臨床学会の席上、学会創立二十五周年を記念、「学会活動と心理臨床学研究発展に大きく貢献した」として「学会功労賞」と「名誉会員」の栄誉を受けられました。

〇〇寄付のついで

学園運営のため、十八年四月以降、次の方々から現金や物品、招待などのご厚志を賜りました。改めてお礼申し上げます。この秋からの安全対策（園舎警報システム、フェンス増設、自動体外式除細動器）をはじめ児童の健全育成や自立支援に向けた活動に充てさせていただきます。

多額寄付

名古屋市名東区の坪井すかささんから百万円頂き、救命用の自動体外式除細動器Ⅱ左写真Ⅱを購入したほか、グラウンド北のスペースに遊具を設置します。



中日新聞社事業団事務局長、小川信俊は中日青葉学園を運営するほか中日福祉ボランティア賞、児童養護施設等の夏キャンペーン「中日こども村」など福祉事業、災害義援金受け付けをする社会福祉法人です。事務局は〒460-8511名古屋市中区三の丸1-6-1 中日新聞社一階 電話052(221)0580

中日ドラゴンズ、ナゴヤドーム、中部日本ビルディング、中日サービス、中日電光ニュース、中日高速オフセット印刷、中日岐阜オフセット、シー・ピー・エス、中日プリンタリ、名古屋タイムズ印刷、中日オフセット印刷、中日制作センター、丸新舎、中日エージエンシー、木下サーカス、東芝ソリユーション、兼松エレクトロニクス、日進電気、長苗印刷、凸版印刷、サシメッセ、ヴァリダック、愛知冠婚葬祭互助会、鬼頭昌子（以上十万円）、中日企業、共生印刷、中日ショッパー、横井太（以上五万円）中日総合サービス、中日興業、緑区ホームサービス、天白アドサービス、中日広告センター、中日ホームサービス、小牧サービス、瀬戸中日サービス、中日サービス、名古屋サービス、西サービス、あま中日サービス、豊明中日サービスセンター、

ご厚志ありがとうございます

知多ピーアルセンター、半田中日サービス、岡崎中日サービス、安城折込広告社、豊田中日サービス、碧南中日サービス、西尾中日サービスセンター、豊川中日サービス、刈谷ホームニュース、（以上三万円）木下工務店、都筑、リゾートトラスト、夢シート、大谷けい子、白井えり子、劇団名芸、劇団飛行船、ハンスコーポレーション泰誠館、TRY&TRUSTマリオンド進店、中部善意銀行、水谷忍、長久手エリンジ、豊橋市自然史博物館、NHK中部ブレイク、日本モンキーパーク、野外民族博物館リトルワールド、慈眼寺、東海アイスクリーム協会、JA三重南紀、JA全農みえ、中部トーマン会、名古屋トヨベツト、日進市社会福祉協議会、中日新聞島岡販売店（以上物品、招待）

（順不同、十月十八日現在）

平成17年度 収入・支出決算概計表

わかば館				あおば館			
収入の部		支出の部		収入の部		支出の部	
款	17年度決算額	款	17年度決算額	款	17年度決算額	款	17年度決算額
1.措置費	132,833,809	1.人件費	110,361,945	1.措置費	175,064,367	1.人件費	133,946,610
2.補助費	1,712,000	2.事務費	11,065,714	2.補助費	21,272,100	2.事務費	13,676,480
3.寄付金	383,000	3.事業費	23,445,672	3.寄付金	1,144,205	3.事業費	49,976,077
4.繰入金	10,100,000	4.固定資産取得費	0	4.繰入金	600,000	4.固定資産取得費	999,930
5.雑収入	907,595	5.繰越金	1,073,073	5.雑収入	5,374,571	5.繰越金	4,856,146
合計	145,936,404	合計	145,936,404	合計	203,455,243	合計	203,455,243

編集後記
青葉学園を多くの方に知っていただきたい。そんな思いから複合施設として再出発して四年目に入った今秋、青葉通信を発行することになりました。編集面ですす頭を浮かんだのは、職員紹介。内容は統一されていませんが、事情をしん酌賜れば幸いです。これから春秋の年二回発行、学園へのご理解の一助になれば、と思います。今後ともよろしくお願いいたします。（M・M）